

# ねぎしょうちえんだより 12月号



## 伸びやかな感性と表現

園長 大村 弘子

子供たちは何かになって「～つもり」で動くことが大好きです。歌ったり踊ったりすることや製作したり絵を描いたりすることも大好きです。子供たちの自由で豊かな感性や表現は楽しく、私も時々仲間に入れてもらっています。先日行った生活発表会は、当日立派な姿を披露することだけを目指すのではなく、日々の園生活で楽しんでいる表現遊びを通して子供たちの姿や成長を見ていただく場と捉え、楽しんでいる過程、創り上げていく過程を大事にしています。今年度はで全園児で行うことができ、年長の保護者の方は年少からの育ちを思い返す、年中や年少の保護者の方はこれからの成長への期待を膨らませる、など子供たちの成長の道筋を感じていただけたことと思います。

好きな動物になっている年少ことり組は本当にかわいいです。当日はたくさんのお客にドキドキしたのか、自由に自分のペースで動く姿が見られました。教師は、ストーリーに沿って動き出せるように温かく関わり、子供たちは教師とやりとりしながら伸び伸びと表現していました。自分の思いを出している、それぞれを3歳児なりに認め合っている、普段の保育の様子が垣間見えるようでした。

年中うさぎ組の劇遊びではストーリーに沿って友達と一緒に表現する楽しさを感じていました。二人で向かい合い手をつないだまま背中合わせになる“なべなべそこぬけ”がうまくできると、とてもうれしそうでした。

「おもいをどうぞ」「ありがとう」などと友達とのやり取りを楽しむ姿がたくさん見られました。歌や楽器遊びも声や音がそろった心地よさを感じながら楽しんでいました。

年長ぞう組は、歌も合奏も劇も「もっと、すてきにしたい」と皆で力を合わせて作り上げました。劇は絵本を基に子供たちが考えたオリジナルストーリーです。教師は、子供たちが自分たちで考えて進めていくことができるように、考える視点や話し合うことを明確にしたり、アイデアを生み出すきっかけをつぶやいたり、必要になるだろうと予想した物をさりげなく保育室に準備しておいたりなどしていました。子供たちは、友達と考え合いながら、役になって動く中で必要なものに気付いて作ったり、その役らしい歩き方や話し方を工夫したりしていました。また、以前遊びで楽しんでいた仕掛けや方法を思い出し、劇の中に取り入れました。経験したこと（知識・技能）を次に生かすことで、経験は自分のものとして心や体に蓄えられ、本物の知識・技能になるのだと思います。本当によく考えて伸び伸び表現しているなあと感心しました。歌や合奏では、皆の声や音をよく聞いて曲想を感じ取って歌ったり合奏したりしていました。

この生活発表会への取組を通して、子供たちは伸び伸びと表現するおもしろさや友達と一緒にする楽しさを味わいました。当日は保護者の方がたくさん拍手と笑顔で見てくださり、その温かな心が子供たちに届き、頑張る気持ちや満足感、自信につながったように思います。ありがとうございました。これからも子供たちの伸びやかな感性と表現を大切に、教育活動を進めてまいります。

今年も残すところ1ヶ月となりました。皆様のご支援、ご協力に感謝いたします。